

注文カード

帖合・貴店名

注文数

冊

不二出版

趙夢雲 編著

「日本近代文学における上海」研究文献目録

一八四〇年——一九四五年

定価 本体5、800円+税

ISBN 978-4-8350-7619-5 (C309)

お名前

お電話

注文 年 月 日

※弊社は注文制です。お近くの書店へご注文ください。

「日本近代文学における上海」 研究文献目録

一八四〇年 — 一九四五年

趙 夢雲 編著

本書は阿片戦争が始まった1840年から日中戦争が終結した1945年までの間に日本人によって発表された上海を舞台とする小説、脚本、紀行、随筆、回想、従軍記、ルポルタージュ、詩及び上海に関する人文・社会関係の資料を年表形式で網羅したものである。

当時の社会情勢や文芸事象も付された本書は、単なる文献目録としてだけでなく、日本と上海との関係を通覧することができる一冊である。

A5判・260頁
上製本・クロス装・函入
2014年2月刊行
定価 本体5、800円+税
ISBN978-4-8350-7619-5 (C309)

研究者に些か道案内の役割を果たすことは、本研究文献目録の主な目的だが、それらの文献資料を実証的に整理し、関連事項を付する形で、この百年来、上海を中心に展開してきた日中の軋轢、日中文化人の交流実相、在留邦人の文化・文芸活動及び生活様態を浮び上らせることも狙いの一つである。

日本近代文学における上海を研究することは、必然的に日中関係史、日中戦争史の研究と結びつき、様々な問題を問ひ直すきっかけにもなる。

文学事象をはじめ、意図的に現地邦人社会の動向をも多く採録し、その内容は社会、経済、歴史、文化、芸術など多岐にわたり、そこから様々な社会事象、現地邦人文学団体の活動、日中文化人の交渉及び在留邦人社会の変遷を垣間見ることができよう。そして在留邦人の日々の営みから、「一等国民」の優越感、欧米が主導権を握る租界に対する劣等感など、つまり当時の日本の姿、いや、縮図がくっきりと現れてくる。

本書「序」に代えてより抜粋

不二出版

〒113-0023 東京都文京区向丘1-2-12 Tel.03(3812)4433 FAX.03(3812)4464
http://www.fujishuppan.co.jp E-mail.administrator@fujishuppan.co.jp

関連図書

改造社 発行 [昭和8年～昭和19年刊]

文藝 全60巻・別冊1

別冊=解説・総目次・索引
A5判・上製・総約32,000頁
揃定価 956,000円+税
'11年6月～'15年1月配本完結予定

- 解説=山下貞史
- 推薦=安藤 宏・太田哲男
川津 誠・木村一信

配本	復刻版巻数	発行年月	本体価格	配本年月
第1回	第1巻～第5巻	昭 8. 11- 9. 3	54,000円+税	2011年6月
第2回	第6巻～第10巻	昭 9. 4-10. 1	82,000円+税	2011年9月
第3回	第11巻～第15巻	昭10. 2-10. 11	82,000円+税	2012年1月
第4回	第16巻～第20巻	昭10. 12-11. 9	82,000円+税	2012年5月
第5回	第21巻～第25巻	昭11. 10-12. 7	82,000円+税	2012年9月
第6回	第26巻～第30巻	昭12. 8-13. 5	82,000円+税	2013年1月
第7回	第31巻～第35巻	昭13. 6-14. 3	82,000円+税	2013年5月
第8回	第36巻～第40巻	昭14. 4-15. 1	82,000円+税	2013年9月
第9回	第41巻～第45巻	昭15. 2-15. 11	82,000円+税	2014年1月
第10回	第46巻～第50巻	昭15. 12-16. 9	82,000円+税	2014年5月
第11回	第51巻～第55巻	昭16. 10-17. 11	82,000円+税	2014年9月
第12回	第56巻～第60巻 +別冊	昭17. 12-19. 7	82,000円+税	2015年1月

修文書館 発行 [明治23年～明治24年刊]

上海新報 全2巻

解説・総目次付き
A4判・上製・総796頁
揃定価 48,000円+税
'11年7月刊〔復刻版〕

- 解説=高綱博文
- 推薦=陳祖恩

『文藝』は、満洲事変を境に思想弾圧が強化されプロレタリア文学が壊滅するなか、新たな文芸復興の機運を背景として、『文學界』にひと月遅れて創刊され、『新潮』とならぶ昭和10年代の代表的文芸雑誌となった。創作、評論を中心とし、海外文学も積極的に紹介したが、太平洋戦争開戦後の文芸雑誌に対する一層の監視下、戦時色が際立つ誌面となり、1944年軍部の圧力により廃刊に至った。同時期に刊行された『文學界』(弊社より復刻版既刊)とあわせて、昭和戦前・戦中期の文壇状況を研究する上で必須の文芸雑誌である。

『上海新報』は、上海における最初の日本語新聞として、明治23年6月より翌年5月まで全52号が刊行された。発行元は修文書館、長崎出身の松野平三郎が週刊紙として創刊した。上海に最も早く進出した三井物産が後援し、創刊目的も「日清間の通商貿易を奨励誘導する」とある。上海の商況や物価、清国内各都市の通商情報のほか、中国人の風俗、上海日本人居留民社会の様子、小説、英・日・中三国対照会話等の記事が掲載され総合誌の役割も果たした。近代日中関係史の第一級・稀覯資料である。

内容見本

年月	単行本	新聞・雑誌	関連事項(社会情勢・文芸文化事象・居留民団動向その他)
一九三二 八月	春日靖軒『正義人道の師上海戦闘史』(研文書院) 飯田久恒(述)『上海事件の真相』(矢来町青年分団/非売品)	村松梢風「戦後の上海」(中央公論)	三日、上海陸戦隊杉坂悌二郎司令官、華人日貨ホイコックト運動が再び激しくなるのを受け、威嚇通告 十九路軍元兵士恠蕙芳ら、「血魂除奸団」の名義を用いて爆弾で日貨を扱う商店を襲撃。六日、恠が民路で爆弾を投げる際に逮捕される
九月	浦路耕之助『上海陸戦隊の華噫忠魂』(杉本書店) 信夫淳平『上海戦と国際法』(丸善) 前芝確三『日本と支那 上海事変を中心として』(二元社) 有馬成甫『海軍陸戦隊上海戦闘記』(海軍研究所) 小松謙堂『戦火閃く 満蒙から上海へ』(玲文社) 歩兵第三十六聯隊編纂部『江南乃戦 上海事変』(鈴木竹香堂/非売品)	村松梢風「男装の麗人」(婦人公論) 翌年六月まで断続連載	一四日、日本、「満洲国」承認。中国政府と民衆が抗議 一七日、「九・一八事変」一周年前日、上海日本軍司令部、日本人居留地域において特別戒厳を実施、居留民、三日間外出を控えようと緊急令を布告 二〇日、日本新任上海総領事石射猪太郎上海着 崑山路威四林巷一二号で妙心寺上海別院完成
一〇月	猪間驥一『上海在留邦人俸給生活者の家計調査に関する中間報告』(上海日本商工会議所) 沢村幸夫『支那現代婦人生活』(東亜研究会)	山本利正「上海慰問第一步」(みちのもと)二〇日号	
一一月	伊地知進『火線に散る』(欽英閣) 坂西利八郎 他『隣邦一巡所感』北京より南京まで 昭和七年十月(満洲事変突発後満一年)上海南京視察談』(日華倶楽部)		二六日、日本人も絡んでいる「紅衣保障団」、実業家榮宗敬の西摩路私邸に爆弾を投げつけ、日貨売買を妨害する者に「最終手段」を以て対処すると警告 二九日、日本総領事石射猪太郎、フランス総領事を訪ね、上海の各種抗日団体及び「除奸団」の多くはフランス租界にあり、警戒の強化を要請

※90%に縮小してあります